

地域おこし協力隊通信 (No. 12) 風速 5 千センチメートル (最大風速)

台風5号 (NORUノルー) 移住して経験するはじめての台風。勢力は大きく、動きは気まぐれ、太平洋のど真ん中に居座り続け、動き出したと思ったら、進路はまさかの種子島。

「こっちに来るんか〜い!」夏の祭りの準備に取り掛かっていた中種子町企画課は揺れます。

催行か否か、会場の草払いで汗まみれになりながら最終決定を待ちます。結果、『本年度の夏祭りは中止!』悲しい結果になったものの、青空に伸びる入道雲はキラキラで台風が迫っているような気配は微塵も感じられません。

そして翌朝。キラキラの変わらない空の下、なんの危機感も持たずに出勤すると役場の人に「雨戸してきた?」と聞かれます。「えっ、雨戸!」大阪の家には雨戸がなく台風には備えるという習慣もなかったので、せっかく頂いた忠告にも全くピンと来ません。「そんな大袈裟なあ〜」とブツブツ言いながら昼間に一旦帰宅し、雨戸を引つ張り出してはみたものの気持ちはやっぱり半信半疑。じゃっばちえ!一変して薄暗くなった室内に佇んでいると、かくれんぼ

の押し入れの中にいるかのように心細くなってきました。

そして台風襲来。町の商店は店じまいをし、車もまばらになります。吹き続ける風は強風域から暴風域へ「バン!バン!バン!」木枠の窓ガラスが、緩急の風に叩かれて割れんばかりの激しさです。テレビの音量を上げて紛らわしてみますが、気持ちはすっかり窓の外。そこに追い打ちをかけるように停電が発生。「えっ!停電?」すぐに復旧しますが、暫くしてまた停電の繰り返し。

翌朝、遂に長時間停電に突入します。テレビはもちろん冷蔵庫、扇風機も稼働しなくなります。室内から出るノイズは消え、向き合うのは台風の唸り声「ひゅー、ブーン、ブフォン!」築50年の家を爆風が揺らし続け、風圧で「ミシッ!」と家を軋ませます。「これはヤバイ」とはじめての台風に肩をすくめて過ごしていると携帯電話が鳴ります。「今から飲もう!今晚泊まつたらいい、迎えにくから」と職員の方から。結局、温かい島の人と島乃泉に助けられ、無事に台風をやり過ごす事ができました。(松田)

地域の防犯効果を高める

青色防犯パトロール新任従事者委嘱

青色防犯パトロール(青パト) 新任従事者への委嘱と必要備品の支給等が8月22日に役場前の駐車場で行われ、鮫島良一さん(牧川)が、と松下久男さん(上方)が、青色回転灯などを受け取りました。

青色防犯パトロールは、地域住民、団体などによる自主防犯パトロールの効果を高めるために、平成16年度から県内で実施されており、町内では現在4名の方が従事されています。



左から鮫島良一さん、松下久男さん

培った支援の経験を生かす

災害時相互協力協定締結式



災害時のボランティア活動の円滑な展開と、復旧・復興の支援などが効果的に促進されることを目的に、8月23日に町中央公民館で、熊毛地区社会福祉協議会連絡協議会と屋久島青年会議所との間で災害時相互協力協定が交わされました。

この協定は県内では3例目となり、一昨年の口永良部島の噴火の際に青年会議所が培った支援の経験が、地区内の災害時に発揮されることが期待されています。